

# BUSINESS REPORT 2023

第67期 年次報告書

2022.4.1~2023.3.31



株式会社田中化学研究所

## 株主の皆様へ

平素より格別のご理解とご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

当社の第67期決算期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の事業の概況及び決算の状況につきまして、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

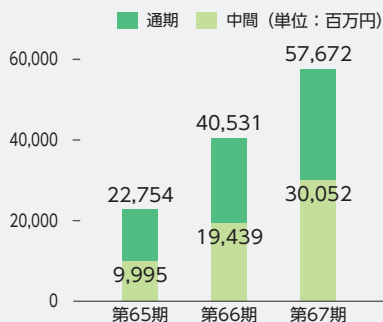


株式会社田中化学研究所  
代表取締役 社長執行役員

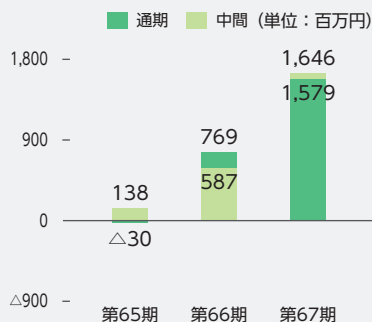
横川 和史

## 財務ハイライト

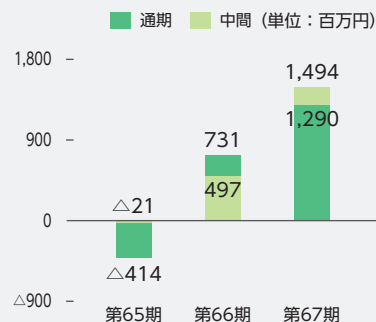
### 売上高



### 経常利益



### 当期純利益

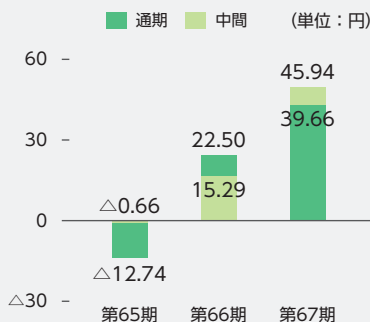


## 事業の概況

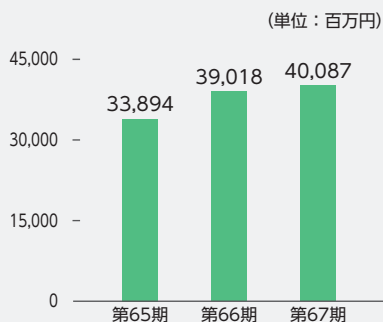
当事業年度における二次電池業界は、世界的に脱炭素社会に向けた取組みが重視される中、各自動車メーカーはEVへのシフトをより一層鮮明にし、EV市場は拡大を続けております。また、米国におけるインフレ抑制法（IRA法）の成立など官民一体となったサプライチェーン構築の動きはますます活発化し、競争環境は多元化の様相を呈しております。

このような市場環境の中、当社の足下の業績をみますと、電気料金はさらに高騰し続けるとともに、苛性ソーダをはじめ各種原材料等は依然として高い水準で推移しており、販売価格への適切な転嫁交渉を継続的に行っております。かかる状況下、生産能力年間約5万トンに対する稼働率は5割程度と依然として低く推移していることに加え、減価償却費及び労務費のコスト先行の状況は変わっておらず業績採算面で非常に厳しい状況が続いております。一方で、2019年10月に契約締結いたしましたノースボルトに対する技術支援については第1四半期に5億円の収益計上をしております。当社製品の主原料であるニッケル及びコバルトの国際相場は、当事業年度末にかけて急激に下落し、第1四半期の最高値比でニッケルは約30%、コバルトについては約50%の下落幅となりましたが、第3四半期までは高い水準で推移した結果、それらが反映される売上が増加するとともに利益面で大幅な増加要因（18億円：（ご参考）（相場関連損益）に記載）となっております。

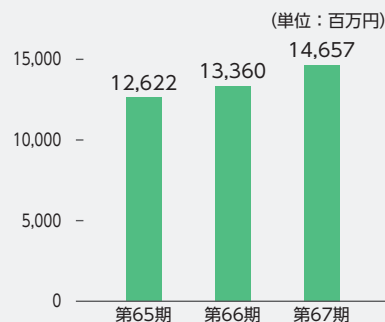
### 1株当たり当期純利益



### 総資産



### 純資産



以上の結果、売上高57,672百万円（前事業年度比42.3%増）、営業利益1,773百万円（前事業年度比115.0%増）、経常利益1,579百万円（前事業年度比105.3%増）、当期純利益は1,290百万円（前事業年度比76.3%増）となりました。

主要な製品用途別の販売数量の概況は以下のとおりです。なお、当社は二次電池事業の単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

### 「リチウムイオン電池向け製品」

前事業年度比で7.5%の減少となりました。用途別の増減は次のとおりです。

- ・ 車載用途（割合86%）は、顧客ごとの販売数量の増減の影響により、前事業年度比で1.4%の減少となりました。
- ・ 民生用途（割合14%）は、最終製品の需要減少により前事業年度比で33.5%の減少となりました。

### 「ニッケル水素電池向け製品」

前事業年度比で2.5%の減少となりました。用途別の増減は次のとおりです。

- ・ 車載用途（割合100%）は、世界的な半導体や部品不足による自動車減産の影響で主要顧客からの受注が減少し、前事業年度比で2.2%の減少となりました。

## ご参考

(ニッケル国際相場：円換算)				(コバルト国際相場：円換算)					
	(単位：円/kg)					(単位：円/kg)			
	4～6月平均	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均		4～6月平均	7～9月平均	10～12月平均	1～3月平均
2023年3月期	3,781	3,075	3,601	3,475	2023年3月期	10,997	8,169	7,746	5,368
2022年3月期	1,917	2,126	2,274	3,069	2022年3月期	5,128	6,014	7,535	9,264

※ニッケル LME（ロンドン金属取引所）月次平均×TTS月次平均  
コバルト LMB（ロンドン発行メタルブリテン誌）月次平均×TTS月次平均

### (相場関連損益)

営業利益に含まれている、主原料の購入から製品の払出までの期間の主原料の相場変動等に由来する相場関連利益（損失は△）は、右記のとおりです。

	(単位：億円)	
	第67期	第66期
	18	10

## 私たちは「正極材料メーカー」です。

主要製品である正極材料は、リチウムイオン電池やニッケル水素電池などの「高性能二次電池」に使用されています。当社の開発した正極材料を使った製品が街中にあふれ、現代社会のあらゆる場所で活躍しているのです。

### 当社の主力製品



三元系正極材料



ニッケル系正極材料



水酸化ニッケル



水酸化ニッケル  
(コバルトコート品)

より良い電池を生み出すために、当社の社員は日進月歩で進化する高性能な正極材料の開発・製造に挑んでいます。

### 二次電池

リチウムイオン電池

ニッケル水素電池

二次電池とは？  
充電することで電気を蓄え、繰り返し使用できる電池のことです。

### 最終製品イメージ



タブレットPC・ノートパソコン・  
電気自動車・電動工具など



ハイブリッドカー・  
乾電池型二次電池など

暮らしに欠かせないスマートフォンを毎日のように充電して使えるのは、二次電池があるから。  
ノートパソコンや電気自動車も二次電池が原動力になっています。

私たちは**先進テクノロジーを支える存在**です。

テクノロジーの進化に伴い、当社が開発した正極材料を使った製品はますます街中にあふれていきます。

# 個別財務諸表

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期 (2022年3月31日)	当期 (2023年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	17,950	20,709
現金及び預金	1,303	1,606
売掛債権	8,797	6,444
棚卸資産	7,383	8,395
その他	466	4,262
固定資産	21,067	19,378
有形固定資産	20,862	19,185
無形固定資産	6	7
投資その他の資産	198	184
その他	198	184
貸倒引当金	△ 0	△ 0
資産合計	39,018	40,087

科目	前期 (2022年3月31日)	当期 (2023年3月31日)
(負債の部)		
流動負債	14,727	16,013
仕入債務	8,918	10,931
借入金	3,800	3,000
その他	2,008	2,081
固定負債	10,930	9,417
借入金	10,800	9,300
その他	130	117
負債合計	25,657	25,430
(純資産の部)		
株主資本	13,335	14,625
資本金	9,155	9,155
資本剰余金	6,662	6,662
利益剰余金	△ 2,480	△ 1,189
自己株式	△ 2	△ 2
評価・換算差額等	24	31
その他有価証券評価差額金	24	31
純資産合計	13,360	14,657
負債純資産合計	39,018	40,087

## 損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前期 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
売上高	40,531	57,672
売上原価	37,531	53,455
売上総利益	2,999	4,216
販売費及び一般管理費	2,174	2,442
営業利益	825	1,773
営業外収益	33	6
営業外費用	89	201
経常利益	769	1,579
特別利益	203	140
特別損失	163	131
税引前当期純利益	809	1,588
法人税、住民税及び事業税	84	314
法人税等調整額	△ 6	△ 16
当期純利益	731	1,290

## キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前期 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
I 営業活動による キャッシュ・フロー	145	8,245
II 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,201	△ 1,415
III 財務活動による キャッシュ・フロー	794	△ 2,344
IV 現金及び現金同等物に 係る換算差額	35	17
V 現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 1,225	4,502
VI 現金及び現金同等物の 期首残高	2,529	1,303
VII 現金及び現金同等物の 期末残高	1,303	5,806

## 業績予想と今後の見通し

(単位：百万円)

	2023／3期	2024／3期予想
売上高	57,672	64,000
営業利益	1,773	1,000
経常利益	1,579	930
当期純利益	1,290	830
設備投資	445	2,300
減価償却費	2,000	2,400

## 役員の状況 (2023年6月23日現在)

代表取締役 社長執行役員	横川和史	
取締役	久野和雄	
取締役	向井宏好	
取締役	田中浩	
取締役 (常勤監査等委員)	大嶋哲夫	
取締役 (監査等委員)	増田仁視	
取締役 (監査等委員)	井上毅	
常務執行役員	山崎龍太	(総務人事、購買物流、情報開示担当)
常務執行役員	嶋川守	(製造、製造管理、設備、品質管理担当)
執行役員	田中学	(営業、原料、IR担当)
執行役員	中根堅次	(研究開発、製造技術、品質保証担当)
執行役員	小林芳彰	(企画、経理担当 兼 企画部長)

## 対処方針

当社は、中長期的な需要増に対応するため、数年かけてインフラを含めた設備増強投資と設備稼働に向けた組織体制の強化で、リチウムイオン及びニッケル水素電池向け製品の増産体制の構築に取り組んでおり、年間約5万トンの生産能力となっております。これらの生産能力を最大限に活用し、既存顧客への拡販及び新規顧客に対して供給体制の最適化を図り、設備の本格稼働へ向けて段階的に準備を行っております。また、生産性、品質安定性、設備負荷等を考慮した生産ラインの最適化を図ることでコスト競争力を高めた強靱な製造力を追求し、製品開発を含め顧客のニーズにそった適時的確な提案をまいります。

## 株式の状況 (2023年3月31日現在)

- |                |             |
|----------------|-------------|
| ①発行可能株式総数      | 47,000,000株 |
| ②発行済株式の総数      | 32,553,000株 |
| ③株主数           | 17,238名     |
| ④大株主の状況(上位10名) |             |

株主名	保有株式数(株)	持株比率(%)
住友化学株式会社	16,407,200	50.43
SMBC日興証券株式会社	621,000	1.91
株式会社三菱UFJ銀行	460,000	1.41
田中保	364,200	1.12
田中浩	300,000	0.92
株式会社福井銀行	300,000	0.92
住友生命保険相互会社	210,000	0.65
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	196,290	0.60
INTERACTIVE BROKERS LLC	193,000	0.59
高橋計行	174,500	0.54

(注) 持株比率は自己株式(1,243株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel：0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所（スタンダード市場）
公 告 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.tanaka-chem.co.jp/">https://www.tanaka-chem.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じた場合には、 日本経済新聞に公告いたします。)

## 会社概要

商 号	株式会社田中化学研究所
設 立	1957年12月
資 本 金	9,155,228千円
主な事業内容	二次電池用の正極材料の製造販売
従 業 員 数	336名
住 所	〒910-3131 福井県福井市白方町45-5-10
電 話 番 号	0776-85-1801（代）
ホームページ	<a href="https://www.tanaka-chem.co.jp/">https://www.tanaka-chem.co.jp/</a>



最新の当社IR情報等をご覧  
いただけます。

(2023年3月31日現在)